

〔Daily 日本史〕 ～古代日本と中国・朝鮮との関わりをつかもう！～

【問】 2003 年 学習院大学 経済

次の文章を読み、〔 〕内で適当と判断する語句を選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

アジア大陸の東に位置する日本は、古くから中国・朝鮮との密接な交流を通じて国家を形成し、文化をつちかってきた。弥生時代、北部九州で行われた墓制の一つである(1)〔イ 支石墓 ロ 積石塚 ハ 墳丘墓 ニ 方形周溝墓 ホ 木棺墓〕は、朝鮮半島南部と共通するもので、朝鮮との深い関係を物語っている。

弥生時代に日本の各所に現われた王は、中国の王朝に使を送って外交関係を結ぶとともに、その文物を取り入れようとした。

中国の歴史書に見える「倭の奴の国」は、現在の(2)〔イ 大阪府 ロ 佐賀県 ハ 長崎県 ニ 奈良県 ホ 福岡県〕にあった国と考えられる。

続く古墳時代には、大陸との交渉はいつそう密接になった。倭王の武は中国の南朝の皇帝に上表し、(3)〔イ 百済 ロ 高句麗 ハ 新羅 ニ 帶方郡 ホ 楽浪郡〕と対抗して朝鮮南部を支配することの承認を得ようとした。

大和政権は、大陸から渡来した人々の持つすぐれた知識や技術を、自己の権力の強化に役立てようとし、彼らを(4)〔イ 忌部 ロ 大伴部 ハ 韓鍛冶部 ニ 中臣部 ホ 土師部〕などの部に組織した。6世紀には仏教・儒教などの学問・思想も伝えられ、朝鮮の(5)〔イ 伽耶諸国 ロ 百済 ハ 高句麗 ニ 新羅 ホ 楽浪郡〕からは、儒教の師である五経博士も渡来した。蘇我氏によって建立された(6)〔イ 飛鳥寺 ロ 斑鳩寺 ハ 四天王寺 ニ 大官大寺 ホ 薬師寺〕の伽藍配置には、高句麗の寺院と共通するものがあると言われている。

6世紀の末に隋が中国を統一すると、朝廷は隋と国交を開き、留学生・学問僧を中国に送った。彼らの中には、(7)〔イ 犬上御田鍬 ロ 小野妹子 ハ 高向玄理 ニ 中臣鎌足 ホ 南淵請安〕のように、帰国後、改新政府の要職につく者も現われた。

天武・持統両天皇の時代、遣唐使は一度も派遣されなかった。この間、日本では律令国家の形成が着々と進んだ。

701年、(8)〔イ 太安万侶 ロ 草壁皇子 ハ 舍人親王 ニ 中臣鎌足 ホ 藤原不比等〕らによって大宝律令が完成すると、翌702年、日本は久しぶりに遣唐使を送った。この遣唐使は、はじめて

「日本」の国号を名のったと考えられている。仏教の思想に触れて人生を見つめ、地方の農民の生活にも深い関心を寄せた万葉歌人(9)〔イ 大伴旅人 ロ 大伴家持 ハ 柿本人麻呂 ニ 山上憶良 ホ 山部赤人〕も、この時の遣唐使の一員であった。

その後、日本はほぼ 20 年に 1 度の割で遣唐使を送った。

717 年に出発した遣唐使には、藤原氏の四家の祖の一人である(10)〔イ 藤原宇合 ロ 藤原清河 ハ 藤原仲麻呂 ニ 藤原広嗣 ホ 藤原不比等〕や、地方豪族の出身で学問にすぐれ、聖武天皇の信任を得た(11)〔イ 阿倍仲麻呂 ロ 石上宅嗣 ハ 淡海三船 ニ 吉備真備 ホ 和気清麻呂〕なども従っていた。

また、733 年に出発した遣唐使とともに日本に着いた(12)〔イ 鑑真 ロ 行基 ハ 玄昉 ニ 道鏡 ホ 和気清麻呂〕は、漢訳された多くの仏典をもたらした。仏教を深く信仰した光明皇后は、この仏典をもとに大規模な写経事業を始めた。この写経は、藤原広嗣が反乱をおこした年にあたる(13)〔イ 740 年 ロ 743 年 ハ 757 年 ニ 764 年 ホ 780 年〕の 5 月 1 日の奥書をもつため、「五月一日経」と呼ばれている。

聖武天皇が国分寺の建立を志した思想的な根拠となったのも、唐で訳され、僧によって日本にもたらされた(14)〔イ 華嚴経 ロ 金光明最勝王経 ハ 勝鬘経 ニ 大般若経 ホ 維摩経〕などの教説であったと考えられる。

朝鮮の新羅との間には、7 世紀以来使人の往来が活発で、文化に大きな影響を与えた。8 世紀に入っても、長屋王が新羅の使人を自宅に招き、貴族や学者を集めて宴を催したことが、(15)〔イ 『懷風藻』 ロ 『経国集』 ハ 『日本書紀』 ニ 『日本霊異記』 ホ 『万葉集』〕に収める詩文によって知られる。

9 世紀の初め、宮廷の中心であった嵯峨天皇は、中国文化の輸入に熱心で、唐から帰国した(16)〔イ 小野篁 ロ 空海 ハ 最澄 ニ 菅原道真 ホ 伴善男〕らを重く用いた。宮廷では漢詩文が盛行し、(17)〔イ 『懷風藻』 ロ 『性靈集』 ハ 『本朝文粹』 ニ 『凌雲集』 ホ 『和漢朗詠集』〕などの勅撰漢詩文集が編まれた。

9 世紀の中頃から、日本では文化の国風化の動きがおこった。しかし大陸への関心はその後も強く、白居易の詩文集である『白氏文集』は、藤原定子に仕えた(18)〔イ 赤染衛門 ロ 和泉式部 ハ 清少納言 ニ 菅原孝標女 ホ 紫式部〕が「書は文集・文選」と言ったように、当時の貴族社会にもてはやされた。中国の書籍や芸術品は「唐物」として珍重され、それを求めようと、貴族の使は、中国の商船が到着する(19)〔イ 大輪田 ロ 対馬 ハ 難波 ニ 博多 ホ 淀〕の港へと集まった。(20)〔イ 円珍 ロ 円仁 ハ 源信 ニ 成尋 ホ 定朝〕のように、宋の商船に乗って中国へ赴く僧も現われた。

【解答】

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) イ | (2) ホ | (3) ハ | (4) ハ | (5) ロ |
| (6) イ | (7) ハ | (8) ホ | (9) ニ | (10) イ |
| (11) ニ | (12) ハ | (13) イ | (14) ロ | (15) イ |
| (16) ロ | (17) ニ | (18) ハ | (19) ニ | (20) ニ |